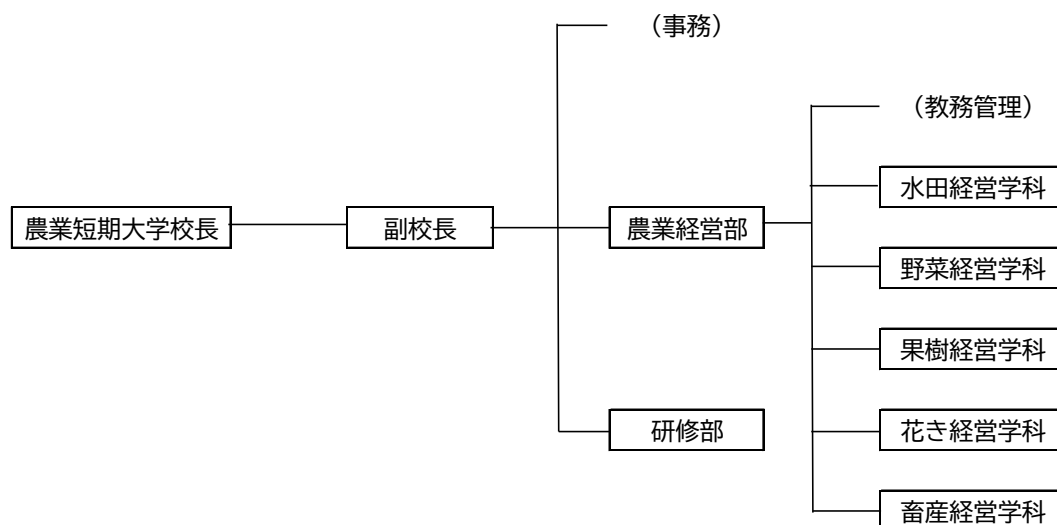


1 農業短期大学の業務実績

(1) 概要

ア 組織



イ 施設 区分	主な施設内容
教育施設	本館(教室、教養ホール、視聴覚教室、職員室、事務室、会議室、講師控室) 研究実験棟(各学科、学科教室(ゼミ室)、実験演習室、研究室、無菌室、培養室) 多目的学習棟(図書室、情報処理演習室、学生ホール) 屋外作業準備棟(警備員室、静養室、ロッカー室、ランドリー室、個室シャワー室) 学生寮(5棟)、食堂、体育館
実習教育施設	実習教育棟、作業棟、機械格納庫、果実選果場、鉄骨ハウス等栽培施設、 乳牛舎、肉牛舎、肥育牛舎、畜産加工演習棟、堆肥舎、パドック、農産物直売所(アグリハウス万菜)
研修施設	アグリ探求棟、一般宿泊棟、屋外トイレ 農業機械実習棟(整備実習室)、トラクタ運転練習コース 農産加工技術センター(開発室、発酵加工室、高湿加工室、粉体加工室)

(2) 農業経営部の取組

実践的な農業の技術力と優れた経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成するため、農業に関する講義や実験・演習、実習、研修などの教育を行った。

ア 学生の状況(学年毎の定員、農業経営部 60 名)

- (ア) 令和 7 年 4 月現在の学生数は、1 学年 57 名、2 学年 41 名、合計 98 名(前年度 97 名)であり、定員には及ばないが、近年 1 学年 40 名以上の確保ができている状況にある。しかしながら、全国的な少子化の傾向が今後ますます進行することから、学生確保が一層厳しさを増すものとみられる。このようなことから新卒者のみならず広く学生募集を行うため、令和 6 年度より一般入校試験に新たに「社会人等」の受験区分を設けた。

学科別では、水田経営学科 23 名、野菜経営学科 31 名、果樹経営学科 18 名、花き経営学科 13 名、畜産経営学科 13 名の在籍数となっている。

出身高校別では農業課程が 58 名、普通課程 23 名、その他が 17 名であり、農業高校出身の学生が 59%となっている。

農家・非農家別では専業農家 24 名、兼業農家 21 名、非農家 53 名であり、非農家出身の学生が 5 割以上を占めている。

出身地域別では県北 36 名、県中 23 名、県南 10 名、会津 13 名、南会津 0 名、相双 4 名、いわき 7 名、県外 6 名であり、各地域からの応募がある。

- (イ) 令和 7 年度の専門士(農業専門課程)の称号が付与される者(卒業生)は、41 名であった。
 (ウ) 独立行政法人日本学生支援機構の奨学金貸与者は、1 学年 11 名、2 学年 10 名であった。
 (エ) 学生寮の令和 7 年度の入寮は、2 学年は男子 14 名、女子 9 名、1 学年は男子 26 名、女子 13 名であった。

イ 専修教育の状況

(ア) 水田経営学科

1 学年は、農場実習で水稻、麦類、大豆、イモ類などの食用作物の栽培や加工を体験し、基礎的な技術、観察力などを身に付けた。また、県内・県外研修や先進農家等留学研修により、実践的な経営感覚を養った。

2 学年は、水稻または畑作物を対象作物として、就農後または生産現場で活用できる成果を目標にした卒業論文に取り組んだ。作物の栽培や論文のとりまとめを通して、高度な技術と経営感覚を身につけた。

また、学科独自に、学生がデザインしたオリジナル米袋による本校産米の販売、大玉村『あだたらの里「福、笑い」栽培研究会』の一員として県オリジナル水稻品種「福、笑い」の栽培、本校産小麦を使用した乾麺「アグリカレッジ福島のうどんだばい」の矢吹町ふるさと納税返礼品への供給に取り組んだ。

学生の進路については、2 学年生 8 名のうち 4 名が卒業後に就農する予定である（自家就農 2 名、雇用就農 2 名）。

(イ) 野菜経営学科

1 学年は、県内で栽培が盛んで就農時の経営の柱となるきゅうりやトマト、アスパラガス等の栽培の基礎を学び、さらに経営の副品目を組み合わせて周年で営農する農業技術や農業機械の操作などについて学習し知識・技術を高めた。県内先進農家において長期研修を行い優れた技術や経営について学んだ。

2 学年は、産地視察を行い生産者や J A 担当者から現場の課題を聞き取り、それを反映する形で課題解決や高収益生産などを検討する卒業論文調査研究に取り組んだ。年 6 回開催の直売実習などにおいて学生が生産物を消費者に直接販売するなど、高度な栽培技術の習得や経営実践力を養った。また、産地は農業者の係る優良事例について自ら企画して現地で視察・調査を行い知識や技術を高めた。

JGAP 及び FGAP の認証を取得しているトマトやきゅうりにおいて、学生によるリスク評価や管理作業及び収穫の記録作成等の実践が定着するとともに、更新審査の準備、事前の模擬審査について学びを深めた。また、直売実習でトマト、キュウリを販売する際は G A P を説明するパネルを展示するなど消費者への P R も行った。

学生の進路については、2 学年 15 名のうち、6 名が雇用就農した。

(ウ) 果樹経営学科

1 学年は、講義及び実習を通して県内の主要品目であるモモ、ナシ、リンゴ、ブドウ、カキについて年間の生育や作業などの基礎を学んだ。また、先進農家等留学研修、県内研修を実施し先進的または熟練した技術や経営について学んだ。さらに、J A への出荷や近隣の事業所を訪問しての販売活動を通して販売感覚を養った。

2 学年は、1 学年で習得した知識と技術を活用し、率先して果樹の管理を行うとともに 1 学年に対して作業手順などを助言するに至った。また、卒業論文として果実品質の改善や収量の増加、加工品の作製などの試験研究に取り組んだ。また、県内外研修を通して果樹の専門技術について理解を深めるとともに、経営の多角化などについても学んだ。

JGAP、FGAP の認証の更新にあたり、改めて関連する項目を確認するとともに、実習においてほ場や作業におけるリスクを実感していた。

学生の進路については、4 名が雇用就農した。

(エ) 花き経営学科

花き経営の基礎である栽培管理については、高温障害の影響で一部のキクに開花遅延が見られたものの、各栽培品目共に順調に生育し、計画どおりの生産・販売を行うことができた。特に夏場の早期収穫実習や校内外の直接販売の実習など、学生自ら生産から販売まで実践し、技術力や販売力を養うことができた。

また、県内の先進農家や県外の生花店、花き関連展示会への視察研修を行うなど高度な栽培技術や先進的な経営感覚を実際に体験し、花き経営への知識を深めることができた。

GAP の一環として、令和 3 年度に取得した「花き日持ち品質管理認証」については 10 月の更新審査に学生が対応して継続認定を受けるとともに、認証シールを宿根カスミソウの販売時に貼付した。学生は日常的に花きの日持ち性向上の意義を認識し、実習に取り組んだ。

学生の進路については、2 学年 5 名のうち 1 名が雇用就農した。

(オ) 畜産経営学科

講義や実習を通して乳用牛や肉用牛に関する知識や飼養管理技術の習得に努めた。特に、責任分担制の下、当番の学生による休日の飼養管理、早朝の出荷作業等を実施させることにより、学生全員が農場の共同経営者となり責任を持って管理するという意識醸成を図った。

また、食肉流通業者や小売店の協力を得て、校内産牛肉の販売実習を行い、牛を育てるだけではなく、繁殖から肥育、流通、販売までの一連の流れを実践的に学ぶことで、経営感覚の醸成を図った。

校外活動では、共進会や枝肉共励会、各種研修会への参加、乳業工場や畜産研究所等の視察研修を実施した。

学生の進路については、2 学年 7 名のうち 1 名が自家就農、5 名が雇用就農した。

(カ) その他特徴的な取組

a 福島大学食農学類との連携の具現化(本校教育への支援、福大生実習受け入れ、学生の交流活動、他)

- (a) 卒業論文発表会審査委員長 高橋秀和教授
- (b) 講義(スマート農業実践) 窪田陽介准教授

b GAP の取組

(a) GAP 概論の開講

本校職員、環境保全農業課職員、GAP・IT サポート合同会社佐久間輝仁代表を講師として GAP 概論を実施した。講座では、GAP の基本理念や本県での取組状況の説明、グループワーク、本校農場における取組状況の見学等を行い、GAP に関する理解を深めた。

(b) JGAP 審査に向けた学生指導の強化

更新審査に向けて模擬審査を実施し、学生に審査の流れや書類の内容を把握させるとともに、農場審査に対する準備を実施させた。一部学生は、更新審査にも立ち会い、審査作業の補助等を行うことで、審査への理解を深めた。

(c) JGAP 認証品目

水田経営学科 米(玄米)、そば、小麦

野菜経営学科 トマト、きゅうり

果樹経営学科 ぶどう、かき

*更新認証日：令和 7 年 12 月 17 日

(d) JGAP 指導員資格取得 2 学年 4 名、1 学年 7 名

(e) FGAP 認証品目：JGAP 認証品目に同じ

*更新認証日：令和 8 年 2 月 2 日

c スマート農業に係る人材育成

(a) スマート農業実践の開講

本校職員、福島大学食農学類准教授によるスマート農業に関する講義と、農業機械メーカー((株) ヤンマーアグリジャパン)と連携し、スマート農業機械(2 機種)を操作演習する研修を実施した。

(b) ドローン資格取得促進特別講座の開講

農業担い手課及び農業機械メーカー(株丸山製作所)と連携して、ドローンの基礎知識や操作技術を学ぶ研修会を学生向けに 2 回、一般向けに 2 回開催し、計 21 名が受講した。

(c) その他

農業振興課が主催する「スマート農業普及啓発セミナー」全 5 回のうち 2 回を本校で開催した(11 月：学生・一般計 145 名参加、12 月：同 146 名参加)。他 3 回もサテライト会場として本校施設を開放した。

d 地域との連携

(a) 農業体験の受入(認定こども園ポプラの木、中島幼稚園、三神小学校)

(b) 矢吹町と本校との連携協定による取組「フロンティア農園」による町民との交流(3 回開催、参加数延べ 51 名)。

(c) インターンシップの受入(郡山萌世高等学校定時制課程 3 名)

(d) JA 東西しらかわとの連携協定に基づくコシヒカリ 100 kg の受領

(e) 矢吹町広報誌への本校学生の紹介記事掲載

(f) 「やぶきフロンティア祭り」への参加

e 販売活動

(a) 直売実習

アグリハウス万菜を会場に、年間 6 回(6/18, 7/16, 8/7, 9/19, 10/26, 11/19)の直売実習を実施した。毎回、実行委員会を開催して、販売計画や年間テーマ、PR チラシの作成を行った。

(b) 農業総合センターまつりにおける農産物販売の実施

農業総合センターまつりに 2 学年が参加し、水田：乾麺、小麦粉、野菜：ミニトマト、タマネギ、ニンニク、ピーマン等などの農産物を販売した(9/5, 6、販売は 5 日のみ)。

(d) 牛肉の販売実習

本校産牛肉の販売実習を ICHII' S ロシナンテ MARKET 4 店舗で実施した(11/29)。

f 情報発信

- (a) テレビ・ラジオによる学生募集案内
 - ＜県政広報テレビ番組 4 回＞
 - i おしえてキビタン! (6/13 放送「新施設供用開始」)
 - ii 県広報課 30 秒スポット放送 (6/16 放送「オープンキャンパス」)
 - iii 県広報課 30 秒スポット放送 (7/1 放送「直売実習」)
 - iv 県広報課 30 秒スポット放送 (12/1 放送「学生募集」)
 - ＜ラジオ 1 回＞
 - i 農家の皆さんへ (10/18 放送「櫛隆祭」)
- (b) 新聞広報(県からのお知らせ)3 回
オープンキャンパス (6/29)、学生募集 (10/26)、就農研修 (12/14)
- (c) 矢吹町広報誌「広報やぶき(農短大生のひとりごと)」12 回
- (d) ホームページ、インスタグラムによる情報発信

g 学生募集

- (a) 県外(東京、千葉、埼玉、栃木ほか)への学校要覧の送付
近年は他県よりオープンキャンパスへの参加者及び受験生がいるため、隣県及び入校した実績のある県(高校)への情報提供を行った。
- (b) 通信制、定時制への学校訪問
近年、通信制、定時制からの学生応募が増加しているため実施した。
- (c) オープンキャンパスの時間短縮
予定どおり 3 回開催した。
新施設への関心の高さから、生徒及び保護者、その他を含め 173 名の参加があり、その内生徒数は 83 名参加があった。

h その他

- (a) 今年度櫛隆祭において新施設を利用し開催した。農業関連企業、地元飲食店、農業法人、キッチンカーによる販売や企業紹介。福島明成高校による販売も継続して行った。
来場者は約 1,200 名と前年度より少なかった。
- (b) 卒業記念講演
3 月 4 日(水)に鈴木農場 鈴木光一氏による記念講演を実施した。

ウ 進路指導の取組

(ア) 就農への誘導

令和 7 年度卒業生の進路状況は、就農 21 名(51%)、農協・農業団体 5 名(12%)、農業関連産業 4 名(10%)、他産業 6 名(15%)、公務員 5 名(12%) であり、就農率は 2 年連続して 5 割を超える結果となった。

- a 令和 3 年度から就農支援サポート支援員(1 名)を配置し、新規就農にかかる支援体制の充実、強化を図っている。県内の農業法人や各市町村、各農林事務所との連携を図り、親元就農に向けた準備支援や、雇用就農者を増やすための農業法人と学生とのマッチング、学生への個別相談、受け入れ可能な農業法人の掘り起こし、就農相談会、各農林事務所及び各方部の就農コーディネーターとの懇談会の開催等を行った。
- b 学生の就農意欲高揚のため、1 学年を対象として「相双地域における農業法人等視察相談会」、「新・農業人交流会 (9/12)」、「ふくしま農業人フェア (10/21)」、「校内ミニ版企業説明会 (2/4)」へ参加した。
- c 就農予定学生と農林事務所の懇談会を 2 回開催し、学生と各農林事務所就農担当者との顔合わせを行い、地域農業の担い手として定着し活躍していけるよう、学生に対する適切な助言や情報共有を行った。

(イ) 進路に対する意識付けと支援

- a 1 学年を対象として 8 月に進路希望調査を実施した。
- b 学生の進路に対する目的意識を強く持たせるとともに、就職を希望する学生に対しては就職活動における心構えを、また、自家就農を希望する学生には雇用する立場となる経営者としての資質向上が図られるよう、就農講座、農業法人等就職講座において指導を実施した。
- c ハローワーク白河と連携し 1 学年 56 名を対象に、ジョブサポーターによる就職に向けた授業を実施した (12/1)。

(ウ) 資格取得支援

- a 大型特殊免許(農耕車に限る) 2 学年 30 名が免許を取得した。
- b けん引運転免許(農耕車に限る) 2 学年 27 人が免許を取得した。
- c 毒物劇物取扱者 1 学年 4 名が資格を取得した。
- d 刈払機取扱作業安全衛生教育 1 学年 31 名受講
- e アーク溶接業務特別教育 1 学年 30 名受講
- f 家畜人工授精師 畜産経営学科 2 学年 6 名が資格を取得した。
- g フォークリフト運転技能講習 7 名が受講した。

(エ) 就農準備資金の活用

- a 就農準備資金は、就農を希望する青年が農業技術及び経営ノウハウの習得のための長期の研修実施を支援する制度で、交付金が年額 150 万円で最長 2 年間交付される。本校農業経営部の学生と研修部長期研修の研修生が交付要件を満たす研修として位置づけられている。2 学年 9 名、1 学年 6 名、長期就農研修生 4 名が受給した。
- b 本制度を活用した 2 学年の就農分野は、雇用就農 9 名であった。

エ 学生募集の取組

(ア) 募集要項等の送付

募集要項等を高校 160 校、県の 36 機関、59 市町村、16 団体に送付し、学生募集への協力を依頼した。

(イ) 高校訪問他

県内の高校 80 校を訪問し、進路担当教員に対して、本校の概要及び募集について、今年度供用開始した新施設（学生寮）等について説明、生徒の進路希望状況について調査した。

(ウ) 進路説明会への参加

高校主催の説明会 20 校延べ 39 校に参加し、本校の概要、新施設等について説明した。

(エ) オープンキャンパスの開催

7 月 12 日(土)、7 月 25 日(金)、8 月 3 日(日)にオープンキャンパスを開催し、本校の施設及び講義内容等について説明した。83 名の高校生等及び 90 名の保護者が参加した。開催案内は高校 160 校、59 市町村、農林水産部の 16 機関、2 団体に送付し、協力を依頼した。

(オ) 県広報の活用

広報課 30 秒スポット放送 4 回、農家の皆さんへ(ラジオ福島)1 回で学生募集を行った。

(カ) 学校見学の受け入れ

入校希望者等個別訪問 6 件、フレッシュ農業ガイド講座の中で修明高校生 20 名が来校した。また、新施設の見学者 27 件・361 名を受け入れた。

(キ) 募集結果は、推薦入校試験受験者 36 名、一般入校試験(前期)受験者 8 名、の計 44 名が受験し、43 名が合格となった。

オ 学生数

(ア) 学科別

※令和 7 年 4 月時点

学 科	1 学年			2 学年			計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
水田経営学科	14	2	16	6	1	7	20	3	23
野菜経営学科	11	5	16	11	4	15	22	9	31
果樹経営学科	8	3	11	4	3	7	12	6	18
花き経営学科	5	3	8	1	4	5	6	7	13
畜産経営学科	4	2	6	7	0	7	11	2	13
計	42	15	57	29	12	41	71	27	98

(イ) 農家、非農家別

※令和 7 年 4 月時点

	1 学年		2 学年		合計	
	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)
専業	17	30	7	17	24	25
農家 兼業	12	21	9	22	21	21
計	29	51	16	39	45	36
非農家	28	49	25	61	53	54
合 計	57	—	41	—	98	—

(ウ) 出身高校課程別

※令和 7 年 4 月時点

	1 学年		2 学年		合計	
	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)
農業高校	35	61	23	56	58	59
普通高校	13	23	10	24	23	24
その他	9	16	8	20	17	17
合 計	57	—	41	—	98	—

力 教育科目
(ア) 2 学年

区分		科目名	単位 数	授業時間数			授業回数（時限数）			
							1 学年		2 学年	
				講義・演習	実験	実習	前期	後期	前期	後期
共通教養科目	全学科共通	生物基礎	1	15			8			
		化学基礎	1	15			8			
		数学基礎	1	15			8			
		国語表現Ⅰ	1	15			8			
		国語表現Ⅱ	1	15				8		
		国語表現Ⅲ	1	15					8	
		人間と社会	1	15					8	
		体育	4	60			10	10	3	7
		教養講座	1	15				8		
		就農講座Ⅰ	2	30			15			
		農業法人等就職講座Ⅰ								
		就農講座Ⅱ	1	15				8		
		農業法人等就職講座Ⅱ								
		① 小計	15	225	0	0	42	41	27	7
共通専門科目	全学科共通	農業経営	2	30					15	
		農業経営演習	2	30						15
		農業法規	2	30						15
		農業関連産業論	1	15			5	3		
		簿記概論	3	45			23			
		農業情報処理基礎	2	30				15		
		農業情報処理応用	1	15					8	
		農業情勢Ⅰ	1	15						8
		農業情勢Ⅱ	1	15						8
		土壌肥料概論	2	30			15			
		農業機械	2	30			15			
		農業機械基礎実習	1			45	6	17		
		農業機械操作実習Ⅰ	1			45			23	
		マーケティング論	1	15					8	
		マーケティング演習	2	30					4	11
		食品製造	1	15					8	
		スマート農業実践	1	15					8	
		GAP 概論	1	15			8			
		卒業論文	10	150				15	30	30
		簿記検定講座*	2	30				14		
		毒物・劇物取扱解説*	1	15			8			
		毒物劇物取扱者資格講座*	1	15			8			
		農業機械操作実習Ⅱ*	1			45			23	
		② 小計 （*自由選択科目を除く）	37	525	0	90	72	66	88	87

区分		科目名	単位 数	授業時間数			授業回数 (時限数)			
							1 学年		2 学年	
				講義・演習	実験	実習	前期	後期	前期	後期
専門科目	水田 野菜 果樹 花き学科共通	農業概論	2	30			15			
		作物保護	2	30				15		
		植物生理	1	15			8			
		環境保全と農業	2	30						15
		有機農業	1	15					8	
		農産物流通	1	15						8
		農学実験	1		30		8	7		
		③ 小計	10	135	30	0	31	22	8	23
	水田経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		水田経営研修	2			90	10	12	19	4
		作物経営実習	25			1125	140	130	195	98
		水田経営基礎	2	30			15			
		水田経営応用	2	30				15		
		水田経営実践	2	30					8	7
		食品製造演習	2	30			4	11		
		④-1 小計	40	120	0	1440	214	168	222	109
	野菜経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		野菜経営研修	2			90	10	12	19	5
		野菜経営実習	25			1125	140	130	195	98
		野菜生産概論	2	30			15			
		野菜栽培各論	2	30				15		
		野菜経営各論	2	30					8	7
		食品製造演習	2	30			4	11		
		④-2 小計	40	120	0	1440	214	170	221	109
専門科目	果樹経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		果樹経営研修	2			90	10	12	19	4
		果樹経営実習	25			1125	140	130	195	98
		果樹生産概論	2	30			15			
		果樹栽培各論	2	30				15		
		果樹経営各論	2	30					7	8
		食品製造演習	2	30			4	11		
		④-3 小計	40	120	0	1440	214	168	222	109
	花き経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		花き経営研修	2			90	10	12	19	4
		花き経営実習	25			1125	140	130	195	98
		花き生産概論	2	30			15			
		花き栽培各論	2	30				15		
		花き経営各論	2	30					7	8
		フラワー装飾演習	2	30				15		
		④-4 小計	40	120	0	1440	210	172	222	109
水田、野菜、果樹、花き経営学科 共通必修科目合計 (①、②、③、④)			102	1,005	30	1530	350	282	336	218

区分		科目名	単位 数	授業時間数			授業回数 (時限数)			
							1 学年		2 学年	
				講義・演習	実験	実習	前期	後期	前期	後期
専 門 科 目	畜 産 経 営 学 科	畜産概論	1	15			8			
		家畜育種学	1	15				8		
		家畜繁殖学Ⅰ	1	15				8		
		家畜繁殖学Ⅱ	2	30					15	
		家畜栄養学	1	15			8			
		家畜衛生学	1	15					8	
		畜産環境保全	1	15						8
		家畜解剖生理学	1	15			8			
		家畜解剖実験	1		30		15			
		先進農家等留学研修	5			225	45			
		畜産経営研修	2			90	10	12	19	5
		畜産経営実習	25			1125	132	138	188	105
		乳用牛・肉用牛概論	2	30			15			
		飼料作物	1	15					7	
		食品製造演習	2	30				15		
		乳用牛飼養管理技術応用	2	30				15		
		肉用牛飼養管理技術応用								
		乳用牛経営	1	15						8
		肉用牛経営								
⑤ 小計		50	255	30	1440	245	192	246	117	
畜産経営学科 必修科目合計 (①、②、⑤)		102	1005	30	1530	359	299	361	211	

履修科目 (必修科目 102 単位、自由選択科目 5 単位の合計)	107	1065	30	1575	660	576
--------------------------------------	-----	------	----	------	-----	-----

(イ) 1 学年

区分	科目名	単位 数	授業時間数			授業回数 (時限数)			
						1 学年		2 学年	
			講義・演習	実験	実習	前期	後期	前期	後期
共 通 教 養 科 目	全 学 科 共 通	数学基礎	1	15		8			
		国語表現	1	15		8			
		体育	1	15		8			
		英語コミュニケーション	1	15		8			
		農業と情報 (基礎)	1	15			8		
		農業と情報 (応用)	1	15				8	
		福島の農業	1	15				8	
		特別講義	4	60		10	10	3	7
		(選) 就農講座Ⅰ	2	30			15		
		(選) 農業法人等就職講座Ⅰ							
		(選) 就農講座Ⅱ	1	15				8	
		(選) 農業法人等就職講座Ⅱ							
		① 小計	15	225	0	42	41	27	7

区分		科目名	単位数	授業時間数			授業回数 (時限数)			
							1 学年		2 学年	
				講義・演習	実験	実習	前期	後期	前期	後期
共通専門科目	全学科共通	農業経営	2	30					15	
		農業法規	2	30						15
		農業関連産業論	1	15			5	3		
		簿記概論	3	45			23			
		農業情勢	1	15						8
		土壌肥料概論	1	15			8			
		農業機械	1	15			8			
		農業機械基礎実習	1			45	7	16		
		農業機械操作実習Ⅰ	1			45			23	
		マーケティング論	2	30					15	
		鳥獣害対策	1	15			8			
		食品製造	1	15				8		
		スマート農業実践	2	30				8	7	
		GAP 概論	1	15			8			
		卒業論文	10	150			4	11	30	30
	自由選択科目	毒物劇物取扱者資格講座*	2	30			15			
		簿記検定講座*	2	30				15		
		刈払機・アーク溶接安全衛生	1			45	8	15		
		フォークリフト運転技能講習	1			45		23		
		農業機械操作実習Ⅱ	1			45			23	
		進路対策講座		30				7	8	
		自由選択小計	7	90	0	135	23	60	31	0
		② 小計 (*自由選択科目を除く)	28	390	0	90	48	54	90	53
専門科目	水田野菜果樹花き学科共通	農業概論	2	30			15			
		病虫害基礎	2	30				15		
		植物生理	1	15			8			
		環境保全と農業	2	30						15
		有機農業	1	15					8	
		農産物流通	1	15					8	
		農学実験	1		30		8	7		
		③ 小計	10	135	30	0	31	22	16	15
		水田経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45		
	水田経営研修		2			90	10	12	19	4
	作物経営実習		23			1035	110	125	170	113
	水田経営基礎		2	30			15			
	水田経営応用		2	30				15		
	水田経営実践		2	30					8	7
	食品製造演習		2	30			4	11		
	④-1 小計		38	120	0	1350	184	163	196	125
	野菜経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
野菜経営研修		2			90	10	12	19	5	
野菜経営実習		23			1035	110	125	170	113	
野菜生産概論		2	30			15				
野菜栽培各論		2	30				15			
野菜経営各論		2	30					8	7	
食品製造演習		2	30			4	11			
④-2 小計		38	120	0	1350	184	163	196	125	

区分		科目名	単位 数	授業時間数			授業回数 (時限数)			
							1 学年		2 学年	
				講義・演習	実験	実習	前期	後期	前期	後期
専門科目	果樹経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		果樹経営研修	2			90	10	12	19	4
		果樹経営実習	23			1035	110	125	170	113
		果樹生産概論	2	30		15				
		果樹栽培各論	2	30			15			
		果樹経営各論	2	30				7	8	
		食品製造演習	2	30		4	11			
		④-3 小計	38	120	0	1350	184	163	196	125
	花き経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45			
		花き経営研修	2			90	10	12	19	4
		花き経営実習	23			1035	110	125	170	113
		花き生産概論	2	30		15				
		花き栽培各論	2	30			15			
		花き経営各論	2	30				7	8	
		フラワーデザイン演習	2	30			15			
		④-4 小計	38	120	0	1350	184	163	196	125
水田、野菜、果樹、花き経営学科共通必修科目合計 (①、②、③、④)		91	840	30	1530	350	295	330	214	
専門科目	畜産経営学科	畜産概論	1	15		8				
		家畜育種学	1	15			8			
		家畜繁殖学Ⅰ	1	15			8			
		家畜繁殖学Ⅱ	2	30				15		
		家畜栄養学	1	15		8				
		家畜衛生学	1	15				8		
		畜産環境保全	1	15					8	
		家畜解剖生理学	1	15		8				
		家畜解剖実験	1		30	15				
		先進農家等留学研修	5		225	45				
		畜産経営研修	2		90	10	12	19	5	
		畜産経営実習	23		1035	110	125	170	113	
		飼養管理基礎	2	30		15				
		飼料作物	1	15				7		
		食品製造演習	2	30			15			
		(選)飼養管理応用(乳用牛)	2	30			15			
		(選)飼養管理応用(肉用牛)								
		(選)乳用牛経営	1	15					8	
		(選)肉用牛経営								
⑤ 小計		48	255	30	1350	223	179	220	133	
畜産経営学科必修科目合計 (①、②、⑤)		91	840	30	1530	313	289	338	207	
履修科目 (必修科目 91 単位、自由選択科目 7 単位の合計)			98	930	30	1665	683	575		

キ 非常勤講師一覧

		科目	講師名	所属・職・機関
共通教養科目	全学科共通	国語表現	担当者	ベスト学院株式会社
		体育	水野純子	メディカルフィットネスさくら
		英語コミュニケーション	担当者	ベスト学院株式会社
		農業と情報(基礎)	志間幸恵	シブスパソコンスクール
		福島の農業	担当職員	各農林事務所、本校職員
共通専門科目	全学科共通	農業経営	川西 学 久野雅己	税理士法人三部会計事務所 株式会社ソーシャルスピーカー代表取締役
		農業経営演習	高原一司	日本政策金融公庫
		農業法規	本庁職員	福島県庁
		農業関連産業論	清野博樹 担当職員	元気象庁職員 福島県農業協同組合中央会 福島県農業共済組合
		農業情報処理応用	志間幸恵	シブスパソコンスクール
		農業情勢Ⅰ	郷田芳博	元高校教師
		農業情勢Ⅱ	本庁職員	福島県庁
		土壌肥料概論	安田修久	元高校教師
		マーケティング論	横尾恵美	しゅふコミ代表
		マーケティング演習	横尾恵美	しゅふコミ代表
		鳥獣害対策	担当者	センター職員・特定非営利法人おーでらす
		食品製造	郡司尚子	郡山女子大学准教授
		スマート農業実践	担当職員	ヤンマーアグリジャパン
		GAP概論	佐久間輝仁	GAP・IT サポート合同会社代表
	自由選択	簿記検定講座	担当者	税理士法人三部会計事務所
		刈払機・アーク溶接安全衛生	担当者	一般社団法人 白河労働基準協会
	専門科目	病虫害基礎	草野憲二	福島県植物防疫協会
		環境保全と農業	谷口崇至	AW エンジニアリング代表取締役社長
		フラワーデザイン演習	中村良美	フラワースタジオ POCO A POCO 主宰
		家畜育種学	國分洋一	元県職員
		家畜栄養学	伊藤純一	元県職員
		家畜衛生学	担当職員	中央家畜保健衛生所
		家畜解剖生理学	二瓶由佳	元県職員
		家畜解剖実験	担当職員	中央家畜保健衛生所
		飼料作物	國分洋一	元県職員

ク 教育行事

月	日	行 事 名
令和 7年 4月	9日	始業式
	10日	入校式
	11日	オリエンテーション
	17日	学生健康診断
	30日	防災避難訓練
	5月中	卒業論文設計発表会
	21日	スポーツ大会
	6月 5日	植付祭
	18日	直売実習 (1回目)
	7月12日	オープンキャンパス (1回目)
	16日	直売実習 (2回目)
	17日	学校記念日
	25日	オープンキャンパス (2回目)
	8月 3日	オープンキャンパス (3回目)
	7日	直売実習 (3回目)
	8日～19日	夏期休業
	9月 4日	毒物劇物取扱者資格試験
	9日～12日	前期試験 (1学年)
	16日～30日	先進農家等留学研修
	19日	直売実習 (4回目)
	24日～25日	前期試験 (2学年)

月	日	行 事 名
10月	1日	後期授業開始
	25日	櫛隆祭・直売実習（5回目）
11月	7日	防火避難訓練
	12日	校内意見発表会（1学年）
	16日	日商簿記検定試験
	19日	直売実習（6回目）
	20日～21日	球技大会（学生自治会、寮自治会主催）、桜記念植樹（20日）
	21日	収穫祭
12月	12日	校内卒業論文発表会
	22日～1月12日	冬期休業
令和 8年	1月14日～15日	東日本農業大学校等プロジェクト発表・交換大会
	19日～20日	後期試験（2学年）
	19日～2月20日	家畜人工授精に関する講習会
	2月12日～13日	後期試験（1学年）
	22日	日商簿記検定試験
	24日～3月1日	海外農業研修（台湾、オーストラリア）
3月	4日	卒業記念講演会（講師：鈴木農場 鈴木光一氏）
	6日	卒業式
	12日	終業式
	13日～4月8日	春期休業

ケ 各種表彰者		
月	日	行事名
		最優秀賞 「和牛にかける夢」 畜産経営学科 1 年 みどりかわ たかし 緑川 天滋
令和7年		優秀賞1席 「和牛とともに過ごす未来」 畜産経営学科 1 年 すずき ゆうた 鈴木 悠太
11月12日	意見発表会	優秀賞2席 「私の将来の夢～作業の効率化と収量・品質向上、収益増加を目指して～」 野菜経営学科 1 年 かねこ まな 兼子 真奈
		最優秀賞 「ピーマン栽培でのV字誘引法における作業時間及び収量の検証」 野菜経営学科 2 年 まつもと ひかり 松本 輝
令和7年		優秀賞 1 席 「高温に強いとされる水稻新系統『福島59号』の特性について」 水田経営学科 2 年 たんじ しゅん 丹治 瞬
12月12日	卒業論文発表会	優秀賞 2 席 「肥育飼料の給与方法の違いによる飼料摂取量の比較」 畜産経営学科 2 年 もんま せいや 門馬 聖弥
		優秀賞 3 席 「大麦とイタリアンライグラス混播の収量性と牛に与える影響」 畜産経営学科 2 年 すずき りくと 鈴木 陸斗

コ 卒業生の進路状況

進 路		農業経営部
就 農	自家	3
	法人	18
	研修	0
	小計	21
非就農	農協	5
	農業団体	0
	農業関連産業	4
	他産業	6
	公務員	5
	進学	0
小計		20
未定		0
合 計		41

(3) 研修部の取組

ア 研修実施状況

就農研修は新規就農希望者や新規就農者の技術習得を目的として初級・中級コースを設け、受講希望者のレベルに応じた体系により実施した。

長期就農研修は就農希望者が就農後の農業経営を早期に安定できるよう、1年を単位とした実習主体の研修として実施した。

就農研修の初級・中級、長期就農研修の実施を通して、長期就農研修11名(内果樹6名)が新規就農した。

農産加工研修は、加工初心者を対象とした「基礎コース(全4回継続参加)」を年2回開催し農産加工に必要な講義を実施した。実際に農産加工品開発を行っている方を対象に「応用コース」を開催し、より高いレベルの商品開発につなげた。新設の「技術コース」では、加工食品の保存方法について実習を行った。

農業機械研修では、大型特殊免許及びけん引免許(いずれも農耕車限定)の取得支援を目的とした「安全運転技術総合コース」、農業機械の基本操作や点検整備、ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用したスマート農業を学ぶ「技術向上コース」を実施した。

また、農業者が抱える課題解決のため、本校の施設・設備を活用する施設利用研修については就農・農産加工・農業機械の各種研修体系の中に組み入れて実施するとともに、農作業安全に関する研修については現地の要請に応じ実施した。

イ 研修実績

(ア) 就農研修

a 初級

名 称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 春コース	[講義]・栽培のための基礎知識 ・営農に係る基礎知識 [実習]・栽培管理実習	県内の新規就農希望者等 15名	15名	5～7月(5日) (土曜日開催)
(b) 秋コース	[講義]・栽培のための基礎知識 ・営農に係る基礎知識 [実習]・栽培管理実習		19名	9～11月(5日) (平日開催)

b 中級

名 称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 中級	[講義、演習、見学] 必修科目：土壌肥料 農業経営、 農業機械、鳥獣害対策 選択科目：水稻、野菜、果樹、 花き、畜産、有機農業	県内の新規就農希望者等 15名	12名	5～8月 (必修科目9日) (選択科目各4日) (平日開催)

c 長期就農研修				
名 称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間
(a) 長期就農研修	[実習、講義] 栽培管理実習を柱にした1年間の研修 研修科目： 施設野菜、露地野菜、果樹、花き、水稲・畑作物、畜産、有機栽培 研修場所： 農業短期大学校、果樹研究所、本部、会津地域研究所、浜地域研究所、畜産研究所	福島県内で農業により生計を立てることを目標とし、就農前に農業の知識及び技術の習得を目指す者 21名(左記の研修場所における総受入れ人数)	15名 内訳 農業短大 7名 果樹研 8名	令和7年4月～令和8年3月

(イ) 農産加工研修

a 基礎（春コース）				
名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 営業許可と食品表示	・衛生管理、食品営業許可 ・栄養表示	農産物加工販売予定者16名	16名	5/15(1日)
(b) 殺菌と包装	・食品の殺菌方法 ・6次化に関する補助事業			5/22(1日)
(c) 瓶詰め・袋詰め食品	・瓶詰め・袋詰めの加工方法 ・瓶詰め実習			5/30(1日)
(d) 事例紹介	・優良農産加工者による事例紹介 ・加工所運営			6/18(1日)

b 基礎（秋コース）				
名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 営業許可と食品表示	・衛生管理、食品営業許可 ・栄養表示	農産物加工販売予定者16名	14名	9/11(1日)
(b) 殺菌と包装	・食品の殺菌方法 ・6次化に関する補助事業			9/18(1日)
(c) 瓶詰め・袋詰め食品	・瓶詰め・袋詰めの加工方法 ・瓶詰め実習			10/ 3(1日)
(d) 事例紹介	・優良農産加工者による事例紹介 ・加工所運営			10/22(1日)

c 応用コース				
名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 新商品づくり	・新たな商品づくり ・食品の殺菌方法	農産物加工販売者16名	11名	8/20(1日)
(b) 長期保存食品	・保存技術の紹介 ・レトルト食品の加工実習		13名	11/18(1日)

d 技術コース				
名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 瓶詰め食品	・瓶詰め・袋詰めの加工方法 ・瓶詰め実習	農産物加工販売者16名	14名	7/1(1日)
(b) 袋詰め食品	・瓶詰め・袋詰めの加工方法 ・瓶詰め実習		16名	7/25(1日)

e 食品素材活用コース

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) トマトの加工①	・トマトの一次加工(ドライトマト・トマトピューレ) 実習	農産物加工販売者16名	14名	6/27(1日)
(b) トマトの加工②	・トマトの一次加工品を活用した二次加工(パン・トマトケチャップ) 実習		18名	11/7(1日)
(c) モモの加工①	・モモの一次加工(ドライフルーツ・ペースト) 実習		14名	8/7(1日)
(d) モモの加工②	・モモの一次加工品を活用した二次加工(焼き菓子・ゼリー) 実習		14名	9/26(1日)
(e) 米粉の加工	・米粉の基礎知識 ・米粉を使った食品(ケーキ・パン)の加工実習		16名	8/28(1日)

f 施設利用研修

名称	主な内容	対象者	受講者数	期間(日数)
(a) 農産加工	・イチゴ乾燥研修	個人事業者	3名	6/2(1日)
	・レトルト加工研修	県加工者連絡協議会	1名	8/12(1日)
	・ジェラード・急速冷凍果実加工	法人	1名	9/12(1日)
	・漬物加工研修	県加工者連絡協議会	15名	10/15(1日)
	・果実乾燥加工	個人事業者	1名	10/29(1日)
	・米粉パン加工	法人	1名	10/30(1日)
	・ブルーベリージェラード加工	個人事業者	1名	11/20(1日)
	・仕出し加工研修	県加工者連絡協議会	18名	12/3(1日)
	・和菓子・おこわ加工研修	県加工者連絡協議会	30名	3/11(1日)

(ウ) 農業機械研修

a 安全運転技術総合コース

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) けん引操作(農耕車限定)	・けん引免許(農耕車限定)取得に向け、公道を安全に運転ができるための技術習得	農業者等各9名	33名	第1回 5/27～5/29(3日) 第2回 6/ 3～6/ 5(3日) 第3回 6/10～6/12(3日) 第4回 6/24～6/26(3日) 第5回 9/30～10/ 2(3日)
(b) 大型特殊操作(農耕車限定)	・大型特殊免許(農耕車限定)取得に向け、公道を安全に運転ができるための技術習得	農業者等各9名	40名	第1回 10/14～10/16(3日) 第2回 10/28～10/30(3日) 第3回 11/11～11/13(3日) 第4回 11/25～11/27(3日) 第5回 12/ 2～12/ 4(3日)

b 技術向上コース

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 初めての刈払機	・刈払機の基礎知識 ・基本操作の習得	農業者等 各8名	13名	第1回 5/13(1日) 第2回 8/21(1日)
(b) 田植機及びコンバインの整備点検	・整備点検技術の習得	農業者等 各10名	30名	2/ 4～ 2/ 5(2日)
(c) 初めての農機整備	・農業機械(トラクタ、刈払機管理機)の点検整備	農業者等 各8名	14名	第1回 9/ 4 (1日) 第2回 1/14 (1日)
(d) トラクタ操作技術向上	・トラクタの基本操作 ・ロータリ耕 ・点検整備	農業者等 各8名	22名	第1回 11/ 5～11/ 6(2日) 第2回 11/19～11/20(2日) 第3回 12/10～12/11(2日)
(e) スマート農業	・中山間地域におけるスマート農業を活用した畑作物・飼料作物栽培 ・R T Kを活用した大規模水稻栽培 (農業振興課主催のスマート農業啓発セミナーとして開催)	農業者等	242名	第1回 11/28 (1日) 第2回 12/ 9 (1日)

c 農作業安全推進コース

名称	主な内容	対象者	受講者数	期間(日数)
(a) 現地支援研修 現地で学ぶ農作業安全	・農作業事故の現状 ・農機械の安全対策	・弥栄ぷらす1地域保全会	12名	6/ 8(1日)
		・西原地区農地環境を守る会	16名	6/29(1日)
		・くにみ農業ビジネス訓練所	10名	7/ 3(1日)
		・しらかわ農業経営アカデミー	27名	8/ 1(1日)
		・こころの里あだたら	5名	9/25(1日)
		・JA夢みなみ石川地区	18名	2/26(1日)
		・喜多方農業普及所主催	17名	11/ 4(1日)

d 施設利用研修

名称	主な内容	対象者	受講者数	期 間(日数)
(a) 農業機械	・ 農作業安全	須賀川農業普及所管内農業者	15名	4/17(1日)
	・ 農作業安全	普及指導員	14名	6/ 6(1日)
	・ 農作業安全	J Aグループ福島営農担当職員	11名	7/23(1日)
	・ けん引操作	農業法人	4名	8/18～8/19(2日)
	・ 農作業安全	安達農業普及所管内農業者	20名	10/27(1日)
	・ 大型特殊操作	女性農業者	16名	11/14(1日)
	・ 大型特殊操作	長期就農生(果樹研)	5名	1/20～1/21(2日)
	・ けん引操作	長期就農生(短大)	3名	1/27～1/28(2日)
	・ けん引操作	こおりやま園芸カレッジ生	2名	2/9～2/10(2日)
	・ 農機整備	農業法人	6名	2/13(1日)

2 福島県農業総合センター農業短期大学校運営会議の開催

大学校が適切かつ円滑に運営されるよう、大学校の教育・研修等の基本的事項について、県内各層の意見を徴し、助言を求めるため設置。令和2年度からは学校教育法に基づく学校関係者評価委員会を兼ねる。

(1) 農業短期大学校運営会議の開催

開催日	開催場所	テ ー マ
令和8年 2月17日	農業短期大学校 クリエイティブホール	1 令和7年度の教育実績 2 学校評価 3 令和8年度の教育内容 4 意見交換

(2) 運営会議委員（敬称略）

氏名	所属・役職名等
橋本 淳一	福島県指導農業士会 会長
中田 幸司	うつくしまふくしま農業法人協会 会長
鈴木 正洋	福島県農業会議 担い手・経営対策部長
宍戸 隆之	福島県農業協同組合中央会 経営改革支援部長
半澤 伸治	福島県農業振興公社 就農支援課長
鈴木 憲治	福島県高等学校教育研究会農業部会 部会長
新田 洋司	福島大学 教授
志間 幸恵	大学校外来講師
足立 靖孝	農業短期大学校後援会 会長
小沢 充博	農業短期大学校同窓会 会長
岩沢 正浩	農業担い手課 課長